

industries in Aichi 10 innovation cases from

新しい挑戦  
ものづくり企業の  
あいちの

新たな一歩を  
踏み出すヒント



自社の強みで新たな道を見出した**10**の事例集



あいちの地場産業  
<https://www.pref.aichi.jp/sangyoshinko/jibasangyo/index.html>



愛知県経済産業局産業部産業振興課  
TEL.052-954-6341 FAX.052-954-6976

令和3年3月発行



## ごあいさつ

愛知県は、製造品出荷額等で42年連続日本一を誇り、輸送用機械をはじめとしたものづくりで日本の経済をけん引しています。

こうした本県産業の輝かしい今は、歴史を遡れば1000年以上もの昔から、ものづくりに携わる人々が長きにわたって創意工夫や研鑽を積み重ね、単なる技術に留まらない、ものづくりのDNAを受け継いできた賜物であります。

しかしながら、地域に根差し、私たちの生活に豊かさや潤いをもたらす地場産業は、ライフスタイルの変化等による消費者ニーズの多様化、海外製品との競合の激化だけでなく、後継者不足や技術の伝承など、多くの課題に直面しています。

加えて、新型コロナウイルス感染症の世界的な流行により、日常はもとより、経済活動への直接的な影響だけでなく、取引方法や商慣行においても、従来にはない対応が求められています。

一方、こうした厳しい状況においても長年にわたって蓄積してきた優れた技術やノウハウ、人の集積など、自らの強みをいかして、新たな商品の開発や販路の開拓、独自の取組等によって、時代の変化やニーズに対応し、自社の進む道を広げている企業や団体があります。

こうした企業や団体の事例が、未来に向かって取り組んでいる事業者の皆様へ、新たなチャレンジを始める何らかのヒントになれば、という思いで本事例集を作成しました。

最後に、本冊子の制作にあたり、取材にご協力いただき、掲載をご快諾いただきました皆様方には心よりお礼申し上げます。

2021(令和3)年3月

愛知県知事 大村 秀章

## 事業者の皆様へ

本事例集でご紹介する愛知県下の10の企業・団体は、近年の厳しい経済環境の中、いずれも独自の取り組みにチャレンジし、新たなイノベーションを生み出した事業者の方々です。自社技術を活かした新商品の開発や、企業間取引(BtoB)から消費者向け販売(BtoC)への事業の展開、新ブランドの立ち上げや再構築による新たな魅力の創出、大学との連携や、同業・異業種を通してのコラボレーション、よりよい社会の実現を目指した活動への参加や技術の継承など、事業者の方々が取り組んだ創意工夫や事業推進の過程とともに、考えや想いをそれぞれのテーマごとに取りまとめました。新たな挑戦へ踏み出すヒントとしてぜひご活用ください。



- イノベーション : 今までにないサービスやまだ存在していない新たな製品・サービスを生み出す。
- ディベロップメント : 新たに良いものをつくる。開発、発展。
- BtoC : 企業が消費者に商品を販売、サービスを提供する。BtoBは企業間の取引。
- リブランディング : 既存のブランドを時代や顧客に合わせて再構築し、新たに定着させる。
- 産学連携 : 大学などの教育機関と民間企業が連携し、研究開発や事業の創出を図る。
- コラボレーション : 異なる知識や能力を持つ人・集団が協力して新たな価値を生み出す。
- SDGs : 持続可能な開発目標。誰一人取り残さない持続可能でよりよい社会の実現を目指す世界共通の目標。



01 リデザインプロジェクト  
「“余った布地”が  
社会活動への  
参加のきっかけに。」

津島毛織工業協同組合 (津島市)



02 ペットハウス  
「新たな事業展開を生む  
大学とのコラボレーション。」

三州野安(株) (高浜市)

03 陶芸用粘土  
「陶芸用粘土の価値を高めて  
新しい市場に挑戦。」

CONERU (瀬戸市)



04 ペットチャーム  
「筆匠の技で、世界にひとつの宝物を。」

筆の里 嵩山工房 (豊橋市)

05 ボトルストッパー  
「仏壇の荘厳さと  
日本人の心を価値に。」

(株)大黒屋仏壇店 (名古屋市中区)



06 スツール  
「伝統工芸士の匠の技を  
身近な日常生活に。」

(有)出雲屋家具製作所 (春日井市)

07 後継者育成  
「伝統技術を守るため  
一般公募で後継者を育てる。」

愛知県絞工業組合 (名古屋市緑区)



08 ゴルフクラブ  
「匠の技術を重ね、従来の  
ものづくりの常識をくつがえす。」

(株)エムエス製作所 (清須市)

09 カクテルシェーカー  
「新たな価値を生む力  
模索と失敗から考えつづける。」

横山興業(株) (豊田市)



10 フライパン  
「築き上げた技術で新たな事業に挑む。」

石川鑄造(株) (碧南市)

# 使われない素材を製品に。 リデザインプロジェクト

津島毛織工業協同組合(津島市)

## 繊維業が発展した 土地ならではの課題

シンプルなチェック柄のトートバッグに、色とりどりの布で作られたクリスマスリース。

実は、布製品を作るときに端切れとして出た布を材料に作られている「リデザインプロジェクト」の製品です。

このプロジェクトに関わる「津島毛織工業協同組合」がある津島市は古くから繊維業が盛んで、「毛織物の父」と呼ばれる片岡春吉の純毛織物創製以来、毛織物の一大産地として栄えてきました。高品質な製品は「尾州ウール」というブランドで世界的にも有名です。

毛織物の企業では、製造の過程で出てしまう端切れの布や規格外の品といった「未利用材」の処理の問題があり、組合員企業は頭を悩ましていました。廃棄する以外の有効な利用法を探していたところに出会ったのが、企業が使わない未利用の布地を使ってデザインの専門学生が作品を作り、障がい者支援施設が製品を作る「リデザインプロジェクト」でした。

## 材料提供から積極的なプロジェクト参加へ

「倉庫に眠る未利用材を作品の材料として引き取りたい。」リデザインプロジェクトの実行委員会から申し入れがあり、当初、組合は材料の端切れの提供のみを行っていましたが、提供を続ける中で、「未利用材」がどのように商品になっているかの過程を知りました。



リデザインプロジェクトの窓口となっている組合の安達さん。プロジェクトへの参加をきっかけにSDGsの活動にも積極的に取り組みたい。



### 津島毛織工業協同組合

所在地 | 津島市立込町3丁目26番地  
業種 | 毛織物の製造の事業協同組合  
設立 | 1947(昭和22)年  
電話番号 | 0567-28-3117  
HP | <http://tsushima.ivory.ne.jp/>

”余った布地“が  
社会活動への  
参加のきっかけに。



廃棄予定となった布を再利用する「環境」。デザインを学ぶ学生がコンテストに参加する「教育」。障がい者支援施設での商品の製造が支援につながる「福祉」。

プロジェクトの実行委員会の方たちの取り組みへの熱意や社会的意義を知ること、活動に参加したい思いを抱き、組合も積極的に関わっていくことになりました。

## 継続的な社会活動が業界の 活性化へとつながる

素材の提供だけでなく、学生への素材の説明、実際に販売する商品の品質検査、販促活動に関わるようになったことで、組合員企業では、社会性の高い事業に取り組むことが、信用やセールスポイントといった付加価値につながるという考えが広がり始めております。また、デザインを学ぶ学生がプロジェクトを通して、就職前に津島の毛織物に触れてもらうことで、才能ある若者が毛織物の業界に入ってくれることに期待をしています。

高い収益の獲得や若者の加入はまだこれからですが、プロジェクトに参加し、社会貢献につながる活動を今後も継続していくことが、津島の毛織物産業界ひいては地域全体の活性化につながると組合では考えています。

# 産学連携の ペットハウス開発

三州野安(株)(高浜市)

## 「瓦」と「ペット」 異色の組み合わせ

愛知の地場産業のひとつである三州瓦と、成長著しいペット産業。なんのつながりもなさそうに見える2つを結びつけたのが、三州野安株式会社と大同大学が共同で新商品開発を行った「瓦猫プロジェクト」です。

元々はハウスメーカーの企画で「ペットと一緒に住める家」を作るとき、瓦で犬小屋を作るという話から始まりました。しかし、大型犬への対応が難しく、プロジェクトが難航しているときに、コラボレーションをしている大同大学から「猫でやってみてはどうか」というアドバイスを受けたそうです。

折しも、この事業計画を「あいち中小企業応援ファンド新事業展開応援助成金」に申請したところ採択されたことから、当初の計画よりも事業の予算にゆとりができました。

大同大学からはプロダクトとマーケティングそれぞれを担当する2人の教授と、デザインを考えてくれる学生たちが参加し、「猫用の瓦ペットハウス作り」が始まったのです。

## 今までにない形の瓦作りに挑む

元々瓦は「夏は涼しく、冬は暖かい」という快適な性能を持つ建材です。猫にとっても過ごしやすい環境を作るのは可能でしたが、一般的な屋根瓦とは違う形を作るのには苦労したそうです。



プロジェクトを担当の営業部の磯貝さん。「今春からはいよいよペットハウスの一般発売が始まるので楽しみです。」



活用した支援施策  
愛知県「あいち中小企業応援ファンド新事業展開応援助成金」  
中小企業者等が行う地域産業資源を活用した新製品(商品)開発、販路拡大などの新事業展開を支援

### 三州野安 株式会社

所在地 | 高浜市田戸町二丁目2-44  
業種 | 陶器瓦各種の製造・販売および屋根工事  
創業 | 1913(大正2)年※会社設立は1964(昭和39)年  
電話番号 | 0566-52-1148  
HP | <http://www.noyasu.com/>

新たな事業展開を生む  
大学との  
コラボレーション。

コラボレーション。

学生から送られてくるデザインは、瓦業界の人間なら考え付かないような独創性に溢れたもので、三州野安は独特な形状の再現を自社技術で製造したのです。

また、遠くからしか見えない屋根瓦が、ペットとともに身近な場所に置かれることから、釉薬の配合を工夫した、通常とは違う瓦製品として仕上げました。

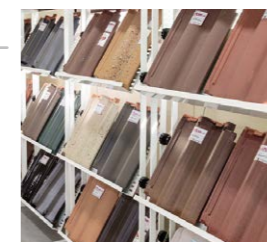
こうして完成した商品は、2020年のペット博覧会「インターペット愛知」で一般のお客様に向けて披露されたのです。

インターペット愛知での反応は予想以上でした。来場されたお客様からは、「犬や猫以外の物を作る予定はないの?」など様々な質問が投げかけられ、ペット市場の盛況ぶりを感じ取ることができました。

## コラボレーションが 新たな可能性を拓く

屋根瓦は使う場所が限定されていることもあり、企業ごとの特色が出にくいことや、製品の特徴に気づかないことが多かったのですが、今回のチャレンジは、大学からの刺激的な提案があつてのものでした。

BtoBが取引の主体でしたが、ペット産業への参入やBtoCを意識した営業を考えるとともに、大学に限らず、様々な異業種とのコラボレーションを視野に入れて事業展開を広げていく予定です。



# おうちで陶芸が楽しめる 陶芸粘土

CONERU(瀬戸市)

## 日本三大陶磁器・瀬戸焼

有田焼、美濃焼とともに「日本三大陶磁器」に名を連ねる「瀬戸焼」。3つの焼き物のうち最も歴史が古く、1000年にさかのぼります。瀬戸焼の魅力は釉薬による光沢と作品の幅が広いこと。器だけでなく、人形や置物などのインテリア品まであり、東日本を中心に一般的な陶磁器が瀬戸物と呼ばれるまでに普及しました。



瀬戸が陶磁器の産地として栄えた背景にあるのは、この地で採れる良質な土。平安時代から採掘されていたといわれ、色が白く、粘り気が強いのが特徴。全国的に見ても非常に質が高く、貴重ですが、現在は原料の枯渇が大きな課題になっています。

## ハンドメイド市場に 可能性を感じ、新事業に着手

「実家が70年以上続く粘土メーカーなんです」と話すのは、粘土ショップ「CONERU」のオーナー牧さん。2019年にサラリーマンを辞めて、家業に就くも、「このままでは瀬戸物は衰退してしまう」と危機感が拭えませんでした。そこで業態を変えて、粘土の価値を高めようと、地域ビジネスの起業支援を行う「せと・しごと塾」に参加。これまで陶磁器メーカーや陶芸作家などに販売してきた粘土を、一般向けに販売してはどうかと考えたのです。専門家の指導のもと事業計画する中でプランを後押ししたのはインターネッ



CONERUの牧代表。中小企業庁「Japan Challenge Gate 2020～全国ビジネスプランコンテスト～」のファイナリスト8人に選ばれ、地域の課題解決や産業の活性化に貢献する起業家として評価を得ている。



## CONERU(合同会社 丸丸商店)

所在地 | 瀬戸市朝日町28番地  
業 種 | 陶磁器用粘土製造販売  
(陶芸スペース・教室運営)  
設 立 | 2020(令和2)年3月2日  
電話番号 | 0561-57-1654  
H P | <https://www.coneru.co.jp/>

陶芸用粘土の  
価値を高めて

新しい市場に挑戦。

トのフリーマーケット市場の存在。ハンドメイド作品を売買する人たちが増えていると感じた牧さんは「自宅に陶芸」をテーマに新しい粘土づくりに着手しました。

## おうち時間を楽しむ 手作りキットとして大きな話題に

しかし、家庭で陶芸専用の窯を用意するのは難しい。そこで、牧さんは家庭のオープンで焼ける粘土を見つけました。「偶然ですが、その粘土は実家の粘土を加工したものだったんです」縁を感じた牧さんはその粘土メーカーと契約し、オリジナル商品の発売が実現しました。粘土の販売と陶芸体験ができるお店『CONERU』の開店を目前にした2020年3月、新型コロナウイルスによる移動の自粛となったため「来店できないならこちらから届けよう」と、開店を延期し、先にオンラインショップを開設しました。販売した「きほんのセット」はステイホーム需要に乗り、TV番組にも取り上げられて大きな話題に。全国から発注があり、危機を乗り越えたCONERUは6月、無事に開店し、今では、瀬戸の商店街を散策しながら陶芸体験できる場として注目を集めています。



# 豊橋筆の技法を用いた ペットチャーム

筆の里 嵩山工房(豊橋市)

## その書き味に 書の大家も頷く

豊橋は江戸時代から200年以上の歴史がある日本三大筆産地のひとつで、高級筆の7割がここで生産されています。豊橋筆の大きな特徴は、独特の技法「練り混ぜ」です。長さも種類も異なる毛を水に浸し、むらなく均一に混ぜ合わせる作業を6~7回繰り返すことで、墨になじみやすく、すべるような書き心地を実現しています。その書き味に魅了され「豊橋筆でなければダメだ」という書の大家も数多いそうです。



しかし、近年では原料となる動物の毛の高騰や需要の減少が課題に。何とか豊橋筆の魅力を伝えられないかと動き出したのが嵩山工房の伝統工芸士・山崎さんでした。

## ペットの面影そのままに 豊橋筆の技法で思い出を残す

山崎さんは娘の亜紀さんと一緒に、得意とする動物の毛、ペットの毛を使ったストラップが作れないかと考えていました。赤ちゃんの産毛で筆を作る「赤ちゃん筆」にヒントを得たのです。

山崎さんたちはアイデアを形にすべく、愛知県が募集していた「伝統工芸産業ブラッシュアップ事業」に参加することで、マーケティングの専門家からアドバイスをもらいながら、ペットチャームの制作が進められました。動物の毛を知り尽くし、細筆の技術を持つ



伝統工芸士の山崎さんと娘の亜紀さん。地域の小学校で開催される筆づくり体験の出張授業などにも講師と呼ばれるなど、地元での伝統工芸の伝承にも力を注いでいる。

筆匠の技で、

世界にひとつの

宝物を。



た筆匠だからこそ作れる品は、いつでもペットと一緒にいられる品として新聞などに取り上げあげられ、瞬間に話題になります。

ペットチャームは筆のように糊で固めて仕上げず、その子の毛並みを活かしてそのまま再現。写真付きキーホルダーや遺影の品など商品ラインナップがあり、ペットとの思い出を語る一品として、全国から受注を受けています。

## 豊橋筆の名を全国に 広めるために

高級筆の7割を生産するにも関わらず、豊橋筆の名を知っている人は多くはありません。その理由のひとつとして、筆は出荷後には入荷元が自社の名を入れて販売することが多いからです。「伝統工芸産業ブラッシュアップ事業」では、「豊橋筆のブランディング」「豊橋を筆の聖地とする観光資源化」のアドバイスもあり、豊橋筆のロゴデザイン制作や体験工房の開設にも着手しました。

また、豊橋創造大学の学生と一緒に、地域課題解決に取り組む学内活動「豊橋筆プロジェクト」を実施。SNSを活用した豊橋筆のプロモーション活動で、オンラインショップの売上向上を図るなど、産学連携の取り組みも行っています。

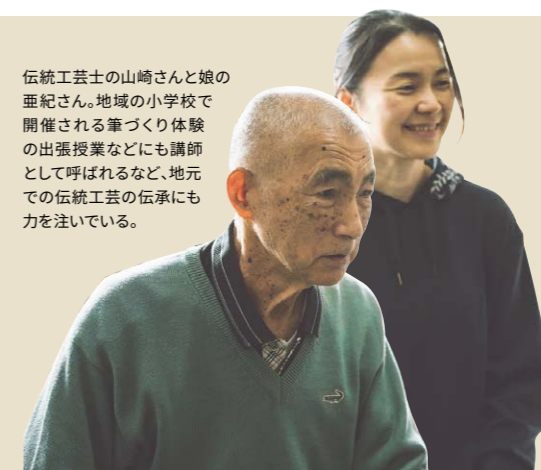
山崎さんは、今後も豊橋筆の名を広めるため、豊橋を筆の聖地という観光資源とするため、その魅力を発信していくことを考えています。

### 活用した支援施策

愛知県「伝統工芸産業ブラッシュアップ事業」  
伝統的工芸品産業の産地企業等に  
マーケティングの専門家を派遣し販路開拓を支援

## 筆の里 嵩山工房

所在地 | 豊橋市嵩山町下角庵1-8  
業 種 | 書道筆・画筆・専門筆・化粧筆等製造販売  
創 業 | 1998(平成10)年  
電話番号 | 0532-88-2504  
H P | <https://www.toyohashi-fude.com/>



# 伝統が生んだボトルストッパー

(株)大黒屋仏壇店(名古屋市中区)



## 名古屋仏壇に受け継がれる 八つの技術

全国に15カ所ある仏壇の伝統的工芸品産地のうち、愛知県は「名古屋仏壇」「三河仏壇」の2つの産地を有しており、仏壇の産地として栄えてきました。

しかし核家族化で洋室が主流となり、ひと部屋の広さがコンパクトに設計された現代の生活様式では、以前のように大きな仏壇を置くことが少なくなり、小型化された仏壇がトレンドとなっています。そんな中でも、今なお名古屋仏壇に残るのが八つの仕事に分業された製造工程です。

八つの仕事とは、内外金具職・蒔絵職・木地職(天井含む)・宮殿職・彫刻職・塗職(呂色含む)・箔押職・組立職のことで、仏壇造りに欠かせない専門職として「八職」と呼ばれています。名古屋仏壇にはこれらの技術が集約され、昔から伝わる高度な技術を今日まで受け継いでいます。仏壇が何十年と年月を経ても荘厳さを保ち、仏や先祖の御霊を守り続けているのは、この技術があってこそなのです。

## 八職の技術に新しい可能性を見出す

こうした名古屋仏壇製造を支える伝統技術で新たな価値を生み出したいと動き出したのが、大黒屋仏壇店です。八職の技術を受け継いでいくためには、幅広く視野を広げなければならない。そう思っ



TEAWASEプロジェクトを立ち上げた内藤社長。製造相談の際は素材見本で技術を伝え、提案するなど、新たな工夫で仏壇の可能性に挑戦している。



価値に。

仏壇の荘厳さと日本人の心を



た大黒屋仏壇店の内藤社長は「TEAWASE(テアワセ)プロジェクト」を発足。愛知県の「伝統工芸産業ブラッシュアップ事業」に参加し、マーケティングの専門家のアドバイスのもと、仏壇業界の常識を超えたアイデアで仏壇の技術を広く展開していったのです。それらはインテリアデザイナーや設計士から注目され、百貨店の貴金属売場の什器パネルやホテルの壁面などに漆の技が用いられるなど、新しい素材として高く評価されています。

## 所作にもこだわり 日本の心を継承し続ける

さらに新たな製品づくりにも着手。細部にこだわる名古屋仏壇の技術を生かせるものを、と模索し、たどり着いたのが「酒瓶の栓」でした。和食やフレンチなどの高級店に並ぶ酒瓶。それらを仏壇の技術でより荘厳に演出する、というアイデアです。イメージは「抜刀」。酒瓶を小脇に持ち、もう片方の手で栓を抜く仕草を、武士が刀を抜く姿に重ね合わせたのです。金箔を施した上に透明の漆でコーティングした品や、沈金(ちんきん)という非常に難しい技術を施した品など、いずれも伝統の技と現代のアイデアを融合した逸品揃い。今までの市場になかったというばかりでなく、所作にこだわる日本人のあり方も再現。たとえ、形を変えても、仏壇が人々に語り継いできた古き良き日本の心を伝承していきたいという思いが込められています。

### 活用した支援施策

愛知県「伝統工芸産業ブラッシュアップ事業」  
伝統的工芸品産地の産地企業等に  
マーケティングの専門家を派遣し販路開拓を支援

## 株式会社 大黒屋仏壇店

所在地 | 名古屋市中区門前町5-8  
業種 | 仏壇・仏具製造販売  
創業 | 1918(大正7)年  
※会社設立は1961(昭和36)年  
電話番号 | 052-331-0002  
HP | <http://www.daikokuya-b.co.jp/>

# 住環境の変化に合わせたスツール

(有)出雲屋家具製作所(春日井市)



## 名古屋城築城により 磨かれた技を今に受け継ぐ

気密性が高く、防虫効果があり、長年使っても歪みにくい。「桐たんす」は、高温多湿な日本の気候風土に合う家具として、日本の暮らしの中で長く使われていますが、「名古屋桐箆笥」は、約400年前に名古屋城築城のために集まった職人たちによって、アク抜乾燥や板はぎ技術、継ぎ手・組み手などの技法が向上したと言われていました。

名古屋桐箆笥と言えば、装飾の美しさ。金や真鍮メッキを施し、金箔画や漆塗蒔絵などを付けた華やかな装飾が施され、豪華で知られる名古屋の嫁入り家具の主役であったことがうなずけます。

その技術を現代に受け継いでいるのが「出雲屋家具製作所」です。6人の職人のうち5人が伝統工芸士の資格を有し、日本屈指の総桐たんす工房として、製造とその魅力を伝えています。

## 創意と工夫で 伝統を現代に生かす

「現代の生活様式の移り変わりは、桐たんすにも変化をもたらしています」と話す出雲屋家具製作所の今岡社長。

近年では着物の減少や住宅環境の変化により箱物家具の需要が減少傾向にあります。この変化に順応すべく、新しい製品づくりに着手。代表的なものは、伝統技法を活かしたオリジナルの「総桐チェスト」です。



伝統工芸士の  
匠の技を身近な  
日常生活に。

洋室にも合うようにデザインを見直し、桐たんすのイメージを一新。伝統的な桐たんすの特長である上部の袋度をなくして、桐たんすには珍しい四ツ脚を採用するなど「リビングにもマッチする」というテーマで新しい需要を生み出しています。

デザインは変わっても基本的な造りはそのままで、框(かまち)組みや蟻組みで強度を保ち、桐材には難しいと言われる摺り漆仕上げで美しい光沢を表現するなど、伝統的技法が活かされています。

## 日常に匠の技を 職人のアイデアが生んだ スツール「楽座」

今岡社長はさらに「たんす以外にも価値を見出したい」、「日常生活に職人の技を活かしたい」と考え、職人たちの声に耳を傾けると、「スツールを造ろう」というアイデアが出てきました。桐たんすの良さは「軽さ」と「丈夫さ」。その特徴を活かし誕生したのが、スツール「楽座」です。

蟻組みで強度を保ち、自然塗料仕上げで人にやさしく、汚れがつきにくいという優れたもの。

2.8kgと年配の方でも片手で運べる重さなので、椅子として好きな場所に持ち運びができるだけでなく、購入者によっては小さなテーブルや花台として使われているそうです。

桐たんす売り場で楽座を見かけ「こんなのが欲しかったんだ」と手に取る人も多く、伝統技術を身近に感じられる品として愛されています。



名古屋桐箆笥に深い知識と愛情を持つ今岡社長。伝統の技を受け継ぐ数少ない店として、ブログ・Facebookなどの情報発信も欠かせない。

## 有限会社 出雲屋家具製作所

直営ショールーム「名古屋桐たんす工房 出雲屋」

所在地 | 春日井市前並町前並8-4  
業種 | 名古屋桐箆笥製造販売、一般家具販売  
創業 | 1954(昭和29)年 ※会社設立は1963(昭和38)年  
電話番号 | 0568-31-8627  
HP | <http://www.izumoya.co.jp/>

# 新たな後継者が魅力を発信

愛知県絞工業組合(名古屋市緑区)



## 後継者問題を解決するため 組合が動き出した

名古屋市長の有松・鳴海地域で生産される「有松・鳴海絞」。尾張藩が藩の特産品として保護したことにより栄え、東海道を往来した諸大名の土産品として好まれてきました。木綿布を糸でくくり、藍で染め上げるのが主な技法ですが、その特徴はさまざまな糸くくりの技法と技法の組み合わせによる多彩な模様。手ぬぐいや浴衣のほか、近年ではネクタイやミニバッグ、日傘などにも加工され、幅広い世代に親しまれています。しかし、こうした伝統産業においては後継者不足が大きな悩み。有松・鳴海絞も例外ではなく、職人の高齢化による人手不足・質の低下が大きな課題になっていました。そこで立ち上がったのが愛知県絞工業組合の人たちでした。自らの手で後継者を育てようとして技術者育成事業をスタートさせたのです。

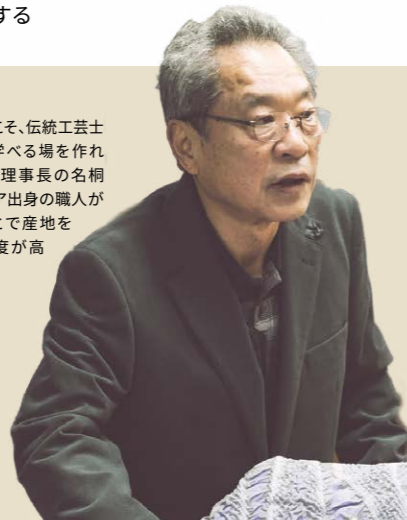
## 伝統工芸士が直接指導し、 技術を継承

スタートは平成21年秋。人材育成を目的とした絞りの体験教室を開設しようと、新聞で募集したところ、予想を遥かに超える問い合わせが殺到。「地元こだわらず他エリアにも発信すれば、絞りに関心を持つ人はまだまだいるんだと気づきました」と副理事長の名桐さんは当時を振り返ります。その後、満を持して、1クラス10名、3クラスの教室が開講しました。

教室の最大の特徴は、伝統工芸士が直接指導する



「組合だからこそ、伝統工芸士から技術を学べる場を作れた」と語る副理事長の名桐さん。他エリア出身の職人が生まれることで産地を越えて認知度が高まっている。



## 愛知県絞工業組合

所在地 | 名古屋市緑区有松3405番地  
業種 | 有松・鳴海絞の製造の工業組合  
設立 | 1967(昭和42)年  
電話番号 | 052-621-1797  
HP | <http://arimatsu-narumishibori.com/index.html>

一般公募で後継者を育てる。伝統技術を守るため

こと。縫い巻き上げ絞り・三浦絞り・鹿の子絞りの3技術を3年かけて習得し、その後は各々で技術研究を行って技術の定着を図ります。年代は30~60代と幅広く、ほとんどが初心者ですが、少数制クラスで着実に技術を身につけ、5年後には多くの受講生が修了証を手に入れています。

## 目標は修了生から 伝統工芸士を輩出すること

もともと有松・鳴海絞は1職人1技術。くくりの技法は最盛期で100種類以上と言われていますが、職人は1つの技術しか習得できず、さまざまな技法を組み合わせる模様を作る場合は、多くの職人が関わっていました。

しかし、それではたくさんの技法を残すことができない。そこで、育成事業では複数の技法を習得させることで、職人1人でも製品づくりができるようにしたの



です。その甲斐あって、現在、約50名の修了生が絞り技術者として従事しており、中にはオリジナル製品を販売する人も現れ、当初の目的を果たすだけでなく、新しい職人が新しい魅力を発信しています。

これからの目標は修了生から伝統工芸士が誕生すること。その日も近いとさらなる期待を寄せています。

# 最高の技術を重ね合わせた ゴルフクラブ

(株)エムエス製作所(清須市)



## 金属加工の技術を伝えたい 出発点となった思い

エムエス製作所は自動車のドアに使われるゴム部品の金型を製作しており、その技術力は高く、愛知県の優れたものづくり企業として、愛知ブランド企業として認定されています。

そんなエムエス製作所が新事業に着手したのは、「金属加工の技術を多くの人に知ってもらいたい」という迫田社長の思いでした。医師である迫田社長が家業のエムエス製作所に入社したのは2016年。「当社の技術で新しい製品が作れないか」と現場に伝えたところ、仕上がってきたのは名刺スタンド。商品としては魅力不足でしたが、細部に至る加工を見て自社の技術の高さを確信したのです。「自社技術を活かせる製品をしっかりと検討すればいいモノが作れる!」と自信を得た矢先、先々代の時代に暖簾分けした企業と合併することに。その企業がゴルフクラブの金属加工を行っていたことから、自社でゴルフクラブを手掛けてみよう、という発想に繋がりました。

## さまざまな分野の技能を ひとつのカタチに

鉄のかたまりを削り出し試作したアイアンヘッドのゴルフクラブを異業種交流展示会「メッセナゴヤ」で披露したところ、鉄の匠がゴルフクラブに求められる繊細な形状を実現させたとして大きな反響を受け、本格的な商品化に向けて動き出しました。「作るなら最高品質を」という考えのもと、最高の技術を集結させるべく同じ愛知ブラン



現在でも医師と社長の2足のわらじで活躍する迫田社長。「MUQU」で集結した匠たちとプロジェクト「KASANE CHUBU」で、中部地区の技術を世界発信していきたいと意気込む。



匠の技術を重ね、従来のものづくりの常識をくつつがえす。

ド企業の名古屋メッキ工業に加工を依頼。「製造業は全部自社でやるべきだと考えがちですが、愛知には優秀な技術がたくさんあります。それを繋げばもっといいものづくりができると考えたんです」と話す迫田社長。そこから、装飾は?保証書の用紙は?と付属品にもこだわり、彫金や尾張七宝、美濃和紙など、伝統技術の職人にも声をかけ、最終的に15社が集結。2018年12月、新次元のアイアンヘッド「MUQU」が誕生しました。

## 使い方を知り 新たなコラボを生む

現在、「MUQU」は、伝統工芸の匠の技術を集結させた「Craft Art」と、革新的な機能を追求した



「Industry Design」の2ラインを展開。技の集結だけでなく、ユーザー目線のものづくりも手掛けたことで、さらに発想が広がりました。それまで医療と工業を別々に考えていたという迫田社長。しかし新型コロナウィルスの蔓延する中、2足の

わらじを履いている自分だからこそできることがあると新たな製品づくりに着手。東京医科大学病院感染制御部の監修を受け、試作を手掛ける山一ハガネとのコラボレーションにより誕生したのがパソコンなどのキーボードを介した感染予防を防ぐ機器「TOUCH WRAP」です。開発には「愛知県新型コロナウイルス感染症対策新サービス創出支援事業補助金」を活用。感染対策に効果的な製品として、大手メーカーとの商品化に向けた開発が進んでいます。

## 活用した支援施策

「愛知県新型コロナウイルス感染症対策新サービス創出支援事業補助金」  
感染症対策のための新サービス・新製品の開発や販路拡大(既存のもの含む)に係る経費の一部を支援

## 株式会社 エムエス製作所

所在地 | 清須市春日立作54-2  
業種 | 自動車用ゴム・プラスチック金型等の設計製作  
創業 | 1971(昭和46)年※会社設立は1972(昭和47)年  
電話番号 | 052-409-5333  
HP | <http://www.msgroup.co.jp/>

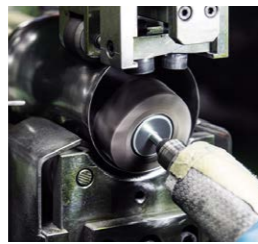
# 研磨技術が生んだ カクテルシェーカー

横山興業(株)(豊田市)



## 技術力の棚卸し その先にみえた光

「このまま何もしなければ業績は右肩下がりだ」。リーマンショック後の業績予測をもとに、2011年、横山興業は自動車部品事業における社会変化を見据え、事業の多角化を目指して新事業に乗り出しました。その一つが、カクテルシェーカー「BIRDY(バーディ)」です。商品企画のリーダーとなったのは取締役・横山さん。アイデアを模索するうち、「制約がないゼロの状態からモノを生み出す難しさ」を実感。自分たちにはモノを作り出すノウハウがないと思い至った横山さんは、「最初から最後まですべて自分たちで作らなくてはいけない」という思い込みを捨て、できることをしようと決意します。では、強みは何だろうか? 「技術力の棚卸し」を始めました。横山さんが目につけたのは、自動車部品製造で培ったマイクロレベルの高度な「研磨技術」。この研磨の技術を生かせる製品づくりがスタートしました。



## 金属×研磨で 新たな付加価値を

新商品開発にあたって、横山さんが次に決めたことは「情熱を傾けられるジャンルであること」でした。道楽ではない、でも好きなもの。ずっと考えていられるもの。そこで着目したのは「酒」。ビジネス目線で見ても、酒は安定した市場がある。日本酒用のステンレス製のぐい飲みを研



商品開発の発起人・横山さん(取締役・商品企画部長)。「自分が営業マンになろう」と自ら動くことで、商品開発だけではなく、広い視野での挑戦を続けています。



新たな価値を生む力  
模索と失敗から  
考えつづける。

考えつづける。



磨し、よく行く酒場で仲間たちに試してもらうことに。しかし、反応は芳しくありませんでした。その後バーに行き、頭を悩ましていたところ、置かれていたシェーカーにふと目が留まりました。さっそく市販のカクテルシェーカーを2つ購入。その一つを研磨し、飲み比べてみたのです。すると、突如として成功が訪れます。「驚くほど味が違って...マスターも僕も何が起こったのかかわからず5分ほど言葉がでませんでした」と当時を振り返る横山さん。横山興業の技術と横山さんの情熱が形になった瞬間でした。

## 自らの経験を発信し、 新しいものづくりを応援

横山興業のカクテルシェーカーは、研磨する際ミクロレベルの細かい凹凸を作っていました。これがカクテルをよりきめ細かに泡立てて、口当たりを良くしていたのです。横山興業にしかできない技術。「試作品でかなり良いものができ、商品化せねばという強い使命感がうまれました」と横山さんは言います。2013年11月、ついに「BIRDY(バーディ)」が誕生。現在、累計10万個を売り上げる力強いブランドに成長しました。

現在、横山興業では、さらなる売上向上をめざしつつ、愛知県が主催する「オープンイノベーションセミナー」で講演し、新事業での成功を発信して新しいものづくりを応援しています。また中部経済産業局の地域資源活用事業にて認定を受け、新事業には各種の補助金を活用。今後は、SNSなどを活用した積極的なPR活動に努めたいと話します。

## 横山興業 株式会社

所在地 | 豊田市千石町1丁目11番地1(本社)  
豊田市大見町1丁目61番地(商品企画部)  
業種 | 自動車部品製造、建材販売、  
太陽光発電システム販売・施工  
創業 | 1951(昭和26)年 ※会社設立は1957(昭和32)年  
電話番号 | 0565-88-7010(本社)  
0565-58-5558(商品企画部)  
HP | <http://yokoyama-co.com/>

# 鑄造技術を活かしたフライパン

石川鑄造(株)(碧南市)



## 子どもの頃の疑問が 開発への原動力に

「外で食べるお肉はおいしいのに、家で食べるとまいちなのはなぜだろう」石川鑄造の石川社長が子供のころから抱いていた素朴な疑問が、ヒット商品「おもいのフライパン」を生むきっかけの一つとなりました。

2004年に石川鑄造の社長に就任した時、時代は大きな転機を迎えていました。ちょうどガソリン車からハイブリッド車などに変える機運が高まっており、従来通りの金属部品鑄造業だけでは立ち行かないの思いが強くなっていました。そのため、金属部品に変わる新商品を開発しようと、社内でもアンケートを実施。その中から鑄造技術を応用して調理器具が造れないかとの声が出ていたこと、日常的に使うものを作りたいとの思いから「フライパン」を造ることに決定したのです。そこで思い出したのが、子供の頃に抱いた素朴な疑問でした。

## 日本初の「お肉がおいしく 焼けるフライパン」

自身の好物が肉料理ということもあって思いついたのが、「お肉をおいしく焼けるフライパン」。インターネットで検索してみると「お店」や「シェフ」は出てきますが、「フライパン」の検索結果が出なかった時「これを造ろう」と開発コンセプトが決定しました。

研究を進めるうちに解ってきたのは、一般的なフライパンは熱伝導率が悪く、火力を十分に肉に届けることが出来ないということでした。その点、今まで造ってきた鑄物は熱伝導率が高く、フライパン



新事業での地域活性化を熱く語る石川社長。「事業の相談や講演会などで自分の持っているノウハウをほかの企業へ伝えたい」と語る。



築き上げた技術で  
新たな事業に挑む。

新たな事業に挑む。

の材料としては理想的だったのです。さらに「高い熱伝導率」という目標に加えて、化学薬品を使わない「無塗装」でフライパンを造ることもこだわりました。そのころ食品偽装事件が相次ぎ、「食の安全性」が注目されていたからです。開発を重ね、2017年に、「お肉をおいしく焼いて欲しい」という思いを込めて造られる「おもいのフライパン」が発売されました。

## 企業の挑戦が 地域活性化へとつながる

発売直後から「おもいのフライパン」は話題となり、入荷3年待ちともなるヒット商品となりました。そんな中で次に取り組んだのは「お肉のサブスクリプション(定期便)」。お肉専門店のおいしい肉を毎月家庭に届け、自社のフライパンで焼いてもらうというこの試みは、今までにないサービスとして話題になりました。さらに2020年度には県の「あいち中小企業応援ファンド新事業展開応援助成金」の採択が決まり、更なる新商品の開発に取り組んでいます。



このように新しいビジネスモデルを生み出してきた石川社長が今取り組もうとしているのは「地域活性化」。自社の成功した事例を広めることで、他の製造業が新たな事業を始めるきっかけがつかれないかを考えています。中小企業発の新しいビジネスモデルが次々と生まれることで地域全体が活性化され、やがて愛知の製造業でブランディングを可能とすることが現在の目標です。

## 活用した支援施策

愛知県「あいち中小企業応援ファンド新事業展開応援助成金」  
中小企業者等が行う地域産業資源を活用した  
新製品(商品)開発、販路拡大などの新事業展開を支援

## 石川鑄造株式会社

所在地 | 碧南市中松町1丁目12番地  
業種 | 鑄造業  
創業 | 1938(昭和13)年 ※会社設立は1950(昭和25)年  
電話番号 | 0566-41-0661  
HP | <http://ishikawa-chuzo.co.jp/>  
<https://omo-pan.net>